

土地利用

(1)

現行都市マスタープラン(平成12年3月策定)における地域のまちづくり方針※赤字は、土地利用に関する方針

現行都市マスタープラン概要版 P8・P12 より

南町・東元町地域のまちづくりの方針

- 野川や国分寺崖線などを活かして、水や緑を保全・活用します。
- 人々が集い交流する駅前広場を、駅周辺の市街地整備にあわせて整備します。
- 道路・交通基盤を整え、商業活性化のための環境づくりを進めます。
- 緑豊かで良好な住環境を守ります。
- 東京経済大学と地域との密接な連携を図ります。
- 学校などの公共施設の集積を活かし、コミュニティや防災の中心となる空間をつくります。

泉町・西元町・東元町地域のまちづくりの方針

- 都市生活・文化交流の拠点、歴史文化の拠点、ふれあいの拠点をつくり、連携を図ります。
- 住環境との調和に配慮しつつ、水、緑、崖線などの自然資源とさまざまな歴史文化資源を活用したまちづくりを進めます。
- 地域の魅力にふれられる、誰もが歩きやすいみちを整備します。
- 公園や学校などの公共施設を活かし、コミュニティや防災の中心となる空間を整備します。

(2)

第1回地域懇談会で示した市民意向や地域の現状分析を踏まえた考えられるまちづくりの方向性(案)

- 『豊かな緑の保全』への対策
- 【対象】生産緑地がまとまって分布するエリア
- ゆとりある住環境を維持するための土地の細分化の抑制
 - 農地や緑の減少を抑制するまちづくりの推進
- 【対象】崖線
- 緑の減少を抑制するまちづくりの推進
- 『落ち着いたある住宅地の保全』への対策
- 【対象】第1種低層住居専用地域指定地区
- 落ち着いた、ゆとりある住環境への更新を促す土地利用規制の適用
 - 耐火性の高い建物へと建替の促進
- 『生活に根差した商業地の確保』への対策
- 【対象】国3・4・11号線沿道地区、国分寺街道沿道地区
- 都市計画道路沿道での市民生活を利便性・快適性を担保する商業機能が立地する適正な用途地域への変更
 - 国分寺街道での歩きながらショッピングが楽しめる魅力的な商業地の形成
- 【対象】歴史資源が多く分布する地域
- 観光客の利便性・快適性を高めるため、小規模な店舗やカフェ等の施設が立地可能な土地利用規制の緩和
- 『駅周辺の商業施設やオフィスの立地の促進』への対策
- 【対象】国分寺駅南口地区
- 国分寺駅北口地区と連携しつつ、都市生活・文化交流の拠点となる広域的な集客力のある商業地としてのまちづくりの推進
- 【対象】西国分寺駅南口地区
- 都市生活・文化交流の拠点となる集客力のある商業地としてのまちづくりの推進

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- 宅地の細分化を抑えるための対応が必要である
- 農地・緑の減少を抑えるための対応が必要である
- 地元の商店を活性化し、賑わいの充実を図るための対応が必要である
- 地域資源を活用した土地利用の方向性を整理する必要である

第1回地域懇談会(10/29, 11/1)におけるご意見(地域の現状)

- 区画が細分化され、宅地ならよいがアパートがどんどん建っている。アパートは賃貸なので国分寺に永住してもらえない。宅地が増えるにしても、若い世代が永住できるような方向づくりができない。
- 東元町、泉町では農家の後継ぎがおらず、畑を続けられなくなって宅地になりつつあるところ、緑地、農地が減っているところが多い。
- 相続で農地が細分化され、宅地になってしまうので、平成34年の生産緑地の解除を待たずに農地はどんどん減っていくのではない。
- 農地、緑地の減少を抑えられるよう、市でも対策してほしい。
- 跡継ぎが相続税が払えず、農業を辞める場合が多い。
- 土地の所有者がいるので、行政だけで農地の利用方法を決めることはできない。
- 南町1丁目のスクランブル交差点に、マンションが4棟建つ予定。北側に緑地があったが、なくなってしまう。緑を残してほしいとお願いしたが、1/3程まで減らされてしまった。
- 国分寺では大型の商業施設を作るより、裏原宿や裏国立のように特徴ある小さな商店を推奨していったらどうか。
- 大型スーパーや商業施設より、小さい商店の方が商品のこと、地元の人々のことに詳しい。小売店がなくなると、地域コミュニケーションが衰退し、まちが寂れると思う。
- コンビニが増え、酒屋や米屋といった地元の買い回りの商店がどんどんつぶれてしまった。
- 国分寺駅前に大きいマンションができたが、国分寺街道へ降りて買い物に行く人は少ない。駅のマルイなどで事足りてしまう。
- 国分寺駅前の再開発も大事だが、OKストアのあたりに大型商業施設やスーパーを作ったほうがよい。
- 商業地域なので、建物の高さはあまり気にならない。
- この地域は商業が多い。地域別構想に商業、商人に関する記載が不十分である。
- 南町の商業地域ではマンションが増えている。町会に入ってくれるので助かる。
- 市でもっと地元の商業の支援をしてほしい。
- 地元の商店と地域の人の交流が大切である。
- お鷹の道は休日は人が多いが、地元にお金を落とってもらえていない。
- 国分寺は税収が少ない。市にお金を落とすために、観光もひとつの方法である。
- 外から人を呼ぶには、これまでとは違う新たな知恵も必要ではないか。
- 道の駅の様な、農産物や特産物を地域の人、観光客に売れるところがあるとよい。
- 住宅地に店を増やしていくのは違和感がある。市がピシターセンター等を作るのはどうか。
- お鷹の道、国分寺跡には観光客や地元の散歩をしている人がたくさんいる。観光客向けの店が増えれば地元住民から少なからずクレームは出るのではない。
- 東元町のフクロウのカフェは、観光客からは人気だが地元住民からは苦情もある。観光客のために店をつくるのは良いが、周辺住民の意見も聞くべき。
- 国分寺は市内外から住みたい街だと思ってもらっているが、中央線を含んで、南北で市民の意識が違うのではない。
- 国分寺は中央線を利用した23区への通勤圏内でもあり、西元町、東元町、泉町では宅地が増えている。宅地の増加に追いついた都市マス、土地利用の方策を練らなければ、地域の様子が様変わりしてしまう。

懇談資料1で示した南町・泉町・東元町・西元町地域のまちづくりの方針(案)との関連

方針1：まとまりある農地と住宅地が調和した落ち着いたある住環境を保全します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①土地利用の細分化の抑制	●	●	●
②まとまりある農地の減少の抑制	—	●	●

方針2：崖線の緑と調和した良好な住環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①宅地内における空間の確保	—	●	—
②崖線に残る緑地の減少の抑制	●	●	●
③緑豊かな住環境に向けたまちづくりの推進	●	●	●

方針3：国3・4・11号線の幹線道路を活かした住環境に配慮した沿道環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①史跡と調和し、魅力ある沿道環境への誘導	—	●	—
②道路沿道における防火性の高い建築物の立地誘導	—	●	—

方針4：国分寺街道等の道路沿道における地域の利便性を高める沿道環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①多喜窪通り等における魅力ある沿道まちづくりの推進	—	●	—
②国分寺街道における身近な買物が楽しめるまちづくりの推進	—	●	—

方針5：国分寺駅と西国分寺駅を結ぶエリアにおいて都市生活の利便性が高い環境を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①駅に近い利便な立地を活かした土地利用の推進	●	—	—
②交流を促すまちづくりの推進	●	—	—

方針6：国分寺駅南口や西国分寺駅南口一帯において都市生活・文化交流の拠点となる複合市街地を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①国分寺駅南口一帯の魅力あるまちづくりの推進	●	●	●
②西国分寺駅南口一帯の魅力あるまちづくりの推進	●	●	●

方針7：武蔵国分寺跡を中心とした歴史・文化にふれられる街並みを形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①地域資源を守り、活かすまちづくりの推進	●	—	●
②史跡周辺の魅力を高めるまちづくりの推進	●	●	●

南町・東元町地域のまちづくりの方針

- 野川や国分寺崖線などを活かして、水や緑を保全・活用します。
- 人々が集い交流する駅前広場を、駅周辺の市街地整備にあわせて整備します。
- 道路・交通基盤を整え、商業活性化のための環境づくりを進めます。
- 緑豊かで良好な住環境を守ります。
- 東京経済大学と地域との密接な連携を図ります。
- 学校などの公共施設の集積を活かし、コミュニティや防災の中心となる空間をつくります。

泉町・西元町・東元町地域のまちづくりの方針

- 都市生活・文化交流の拠点、歴史文化の拠点、ふれあいの拠点をつくり、連携を図ります。
- 住環境との調和に配慮しつつ、水、緑、崖線などの自然資源とさまざまな歴史文化資源を活用したまちづくりを進めます。
- 地域の魅力にふれられる、誰もが歩きやすいみちを整備します。
- 公園や学校などの公共施設を活かし、コミュニティや防災の中心となる空間を整備します。

(2)

第1回地域懇談会で示した市民意向や地域の現状分析を踏まえた考えられるまちづくりの方向性(案)

『安心して歩ける歩行空間の形成』

『誰もが散策を楽しめる道の形成』への対策

【対象】都市計画道路・既存道路

- 都市計画道路や既存道路を活かして街なか散策ができる歩行者ネットワークの形成

【対象】国3・4・11号線、国分寺街道

- 市内の南北交通を担う道路としての整備を促進
- 国分寺街道での歩行者を主体とした道路としての再整備の推進

【対象】国分寺駅南口駅前広場

- 歩行者・自転車・自動車の混雑改善に向けた再整備の検討

『安全に通行できる自転車道の形成』への対策

【対象】国3・4・18号線等、西国分寺駅周辺都市計画道路

- 都市計画道路の未整備区間の整備の推進
- 整備済み区間での道路幅員構成の再配分の検討
- 西国分寺駅へのアクセスを考慮した自転車走行空間の形成

【対象】国3・4・3号線等、国分寺駅周辺都市計画道路

- 都市計画道路の未整備区間の整備の推進
- 整備済み区間での道路幅員構成の再配分の検討
- 国分寺駅へのアクセスを考慮した自転車走行空間の形成

『市内の交通を担う道路の充実』への対策

【対象】国3・4・11号線

- 市内の南北交通を担う道路としての整備を促進

【対象】国3・4・2号線、国3・4・3号線

- 国分寺駅南の交通流動の円滑化を目的に都市計画道路の整備の推進

【対象】国3・4・1号線(一部区間)

- 国3・4・11号線の整備と連動し、既存道路とのアクセスを円滑にする整備の推進

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- 歩行空間・自転車走行空間を確保するための対応が必要である
- 国分寺駅周辺を安全・快適に移動できるための対応が必要である
- 道路状の空間を確保するための対応が必要
- 地域内の交通機能を向上させるため都市計画道路の整備が必要

第1回地域懇談会(10/29, 11/1)におけるご意見(地域の現状)

- 多喜窪通りは歩道が狭い。ガードレールを撤去して、ポールを立てるだけでも歩車分離になり歩行者が安全に歩けるようになる。
- 泉町から国分寺駅に行くのに多喜窪通りを利用するが、狭いのに大型車の通行量が多い。すれ違うのに危ない。自転車が歩道を通っている。
- 多喜窪通りは、昭和30年代に整備された。木造は1mセットバックしたが、RC造はしていないので建物の壁面の位置が不揃いになってしまった。
- 必要な道路をすべて拡幅するのは不可能に近い。狭い道路をいかに活用していくか考えなければならない。
- 車がすれ違えない道路が多い。
- ブロック塀の問題もあるが、根本的に道路が狭いことが大きな問題である。
- 道路が狭いので一方通行化もひとつの案だが、一方通行になると困る道もたくさんある。生活道路は両方向に通行できないと困る。
- 国立は道路が広く、一方通行が多い。国分寺は道路が狭いにも関わらず、一方通行も少ない。
- 道路幅員は最低4mを基準にしているが、本当に4mで良いのか市でしっかりと検討してほしい。4mでも高齢者にとっては怖いと思う。高齢者と子どもが抱える問題は同じではないか。
- 通勤時間に、駅に向かって渋滞が多く発生している。ナビなどで細い横道にも車が入ってきてしまい、危ない。
- 幹線道路整備を最優先に進めるべき。
- 3・4・3号線、3・4・11号線はいつ整備されるのか。
- 東京経済大学から駅へ向かう道は、私道だが公道のように扱われている。車や人が通る道でも、私道がある。私道では街灯も設置できず、費用は土地所有者の負担になってしまう。市道に移管することはできないのか。
- 武蔵国分寺跡は国の管理なのか。道路整備の問題は、都市計画法、建築基準法、文化財保護法がそれぞれどう関わるのか。
- 学校で自転車、歩行者の交通ルールを教えるべき。特に自転車の通行マナーが悪い。市でも指導を徹底してほしい。
- 子どもが安全にのびのびと生活できる地域になってほしい。

懇談資料1で示した南町・泉町・東元町・西元町地域のまちづくりの方針(案)との関連

方針1：国3・4・11号線等の地区内の幹線道路を活かした安全・快適な空間を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①都市計画道路の整備による歩道・自転車走行空間の確保	●	●	●

方針2：駅周辺や武蔵国分寺跡等の地域の拠点を支える道路基盤を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①駅へのアクセスや駅周辺の回遊性の向上	●	●	●
②駅周辺の快適な歩行者空間の確保	●	●	—
③武蔵国分寺跡周辺への公共交通の確保	●	—	—

方針3：日々の生活における快適性を高める地区内の道路を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①主要な生活道路における道路幅員の確保	●	—	●
②都市計画道路の整備に合わせた適切な道路機能の転換	—	●	●

南町・東元町地域のまちづくりの方針

- 野川や国分寺崖線などを活かして、水や緑を保全・活用します。
- 人々が集い交流する駅前広場を、駅周辺の市街地整備にあわせて整備します。
- 道路・交通基盤を整え、商業活性化のための環境づくりを進めます。
- 緑豊かで良好な住環境を守ります。
- 東京経済大学と地域との密接な連携を図ります。
- 学校などの公共施設の集積を活かし、コミュニティや防災の中心となる空間をつくります。

泉町・西元町・東元町地域のまちづくりの方針

- 都市生活・文化交流の拠点、歴史文化の拠点、ふれあいの拠点をつくり、連携を図ります。
- 住環境との調和に配慮しつつ、水、緑、崖線などの自然資源とさまざまな歴史文化資源を活用したまちづくりを進めます。
- 地域の魅力にふれられる、誰もが歩きやすいみちを整備します。
- 公園や学校などの公共施設を活かし、コミュニティや防災の中心となる空間を整備します。

(2)

第1回地域懇談会で示した
市民意向や地域の現状分析を踏まえた
考えられるまちづくりの方向性(案)

『自然の豊かさを感じる空間の形成』への対策

【対象】生産緑地地区

- 生産緑地等の農地の減少を抑制する取り組みを進め、市の特色ある自然の豊かさを感じることのできる景観の保全

【対象】崖線

- 崖線の適切な保全による、市の特色ある自然の豊かさを感じることのできる景観の保全

『大規模な公園や緑地の充実』への対策

【対象】国分寺緑地

- 武蔵国分寺跡等の歴史資源を活かした都市緑地の整備の推進

『小規模な公園や緑地の市内各所への確保』への対策

【対象】未整備都市計画公園(街区公園)

- 未整備都市計画公園の整備の検討

【対象】公園空白地域

- 既存の小規模公園、緑地、生産緑地などを活用した都市計画公園の再配置の検討

『歴史やふるさとを感じる風景の保全』への対策

【対象】国分寺緑地周辺地区

- 歴史資源、自然資源を活かしつつ、歴史的雰囲気高めながら、自然と調和した景観まちづくりの推進

【対象】野川・真姿の池湧水群

- 歴史的景観を演出する要素として、野川の整備促進による散策道の形成と、魅力ある沿川景観を創出する景観まちづくりの推進

【対象】お鷹の道、国分寺街道、都市計画道路

- お鷹の道・国分寺街道を活かした散策路のネットワークの形成
- 国3・4・1号線の国3・4・11号線以西の整備の必要性検討

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- 地域の拠点となる規模の大きな公園を確保するための対応が必要である
- 地域コミュニティを育む小規模な公園を確保するための対応が必要である
- 公園・緑地を維持管理するための対応が必要である
- 野川や崖線の緑を保全、活用するための対応が必要である
- 武蔵国分寺跡周辺を保全、活用するための対応が必要である
- 農地や緑を守り、活かしていくための対応が必要である

第1回地域懇談会(10/29, 11/1)におけるご意見(地域の現状)

- 地域に小さい公園も大きい公園も必要。家の近くに小さい公園があれば、コミュニティも生まれるのではないかと。
- 最近の子どもは遊び場も知らない。外で広々と遊べる場所がなく、受け身の取り方も体得する機会がなくなっている。
- マンションを建てる際に、減った分の緑を公園や中庭で確保してもらいたい。子どもが遊べる公園があればよい。
- 公園に休憩所、トイレがないのが困る。
- 真福寺の公園は頻りに利用されている。
- 公園を作るのはよいが、その後の維持管理が大変ではないか。
- 公園管理を自治会でしているが、修繕するにも市に書類を提出して認可をもらわないと補助も出ない。地域で維持管理に協力するのはよいが、修繕は市でも協力してほしい。
- 野川の整備をしっかりとしてほしい。小金井市のエリアでは綺麗になっているが、国分寺市では以前よりはだいぶ綺麗になったものの、まだ不十分である。
- 野川は整備のやり方次第で、緑を確保できるのではないかと。
- 野川は2箇所でせき止めてしまっていて、水が落ちる音が大きく、せせらぎの音ではなくなっている。
- 日立製作所の中の野川の源流は、昔は泳げるくらい水があったと聞いた。今では水がかなり減ってしまった。
- 大きな樹林地は、対策をしないとどんどん減っていってしまう。
- 国分寺市にとって、野川、武蔵国分寺跡は大切な観光資源、財産である。どう整備していくか、国や都と考えてほしい。
- 東元町から湧水やお鷹の道へのアプローチが悪い。国分寺駅から来た観光客が迷って、よく道を聞かれる。案内板等の設置を考えた方がよい。
- 武蔵国分寺跡に桜を植えたのは良かったが、間隔が狭すぎると思う。
- 東元町、西元町は生産緑地が多い。農地の保全は地主に意見を聞くべき。
- 東元町1丁目は緑が少ない。市全体だけでなく地域別での緑地、緑被率の目標は決まっているのか。
- 個人の住宅で、植木や生垣が生い茂って道路にはみ出しているところがある。通行するのに困るが、個人の敷地なので口出しできない。
- 南町ではブロック塀は少なく、生垣になっている。市の生垣助成はよいが、生垣は維持管理が難しい。
- 生垣助成はよいが、生垣や植木は手入れが難しい。高齢者は手入れ、維持が出来なくなってしまう。
- 市として緑をどうしていきたいのかわからない。

懇談資料1で示した南町・泉町・東元町・西元町地域の
まちづくりの方針(案)との関連

方針1：大規模な緑地の活用や公園の適正配置による人々がふれあい、潤いを感じられる場を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①都市緑地等の大規模公園の確保	●	●	●
②公園空白地域の解消	—	●	●
③公園・緑地の適正な維持管理	—	—	●

方針2：野川等の自然資源を活用した緑豊かな空間を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①野川等を活用した憩いの空間の確保	●	●	●
②崖線の緑を守り・活かしたまちづくりの推進	●	●	●
③都市計画道路等の整備に合わせた緑豊かな沿道空間の確保	●	—	—

方針3：武蔵国分寺跡等の地域資源を活用した歴史的趣を感じられる景観を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①地域資源を守り、活かすまちづくりの推進	●	●	●
②歴史的趣を活かした道路空間の確保	●	●	●

方針4：地域の特性を活かした魅力ある景観を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①駅周辺の魅力や賑わいのある景観形成の推進	●	—	—
②農地等を活かした緑豊かな景観の形成	●	●	●

南町・東元町地域のまちづくりの方針

- ・野川や国分寺崖線などを活かして、水や緑を保全・活用します。
- ・人々が集い交流する駅前広場を、駅周辺の市街地整備にあわせて整備します。
- ・**道路・交通基盤を整え**、商業活性化のための環境づくりを進めます。
- ・緑豊かで良好な住環境を守ります。
- ・**東京経済大学と地域との密接な連携**を図ります。
- ・学校などの公共施設の集積を活かし、**コミュニティや防災の中心となる空間**をつくります。

泉町・西元町・東元町地域のまちづくりの方針

- ・都市生活・文化交流の拠点、歴史文化の拠点、ふれあいの拠点をつくり、連携を図ります。
- ・住環境との調和に配慮しつつ、水、緑、崖線などの自然資源とさまざまな歴史文化資源を活用したまちづくりを進めます。
- ・地域の魅力にふれられる、**誰もが歩きやすいみちを整備**します。
- ・公園や学校などの公共施設を活かし、**コミュニティや防災の中心となる空間を整備**します。

(2)

第1回地域懇談会で示した
市民意向や地域の現状分析を踏まえた
考えられるまちづくりの方向性(案)

『緊急車両が通行できるような狭い道路を改良』への対策

【対象】 木造建築物が多い地区、狭い道路が多い地区

- ・主な住宅内道路の道路幅員の確保(道路拡幅、壁面後退等)など、災害に強いまちづくりの推進
- ・沿道建築物における耐火性の高い建築物への更新の促進

『火災の延焼を防ぐ広い道路整備などの推進』への対策

【対象】 国3・4・4号線、国3・4・1号線(一部区間)

国3・4・11号線、国3・4・3号線、

国3・4・2号線

- ・延焼遮断機能となる都市計画道路の優先的な整備の推進

『防災公園や、避難場所の充実』への対策

【対象】 地区防災センター

- ・避難場所となる教育施設周辺街路の拡幅、周辺建築物の耐震化を推進
- ・避難場所となる教育施設への誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの導入

『個々の建物の不燃化・耐震化の促進』への対策

【対象】 木造建築物が多い地区

- ・耐火性の高い建築物への更新の促進

(3)

第1回地域懇談会のご意見(地域の現状)から抽出した本地域の課題

- ・災害時に機能するための交通基盤の強化を図るための対応が必要である
- ・地域住民と行政が協働で防災まちづくりに取り組むための対応が必要である
- ・誰もが安心して道路利用ができるための対応が必要である
- ・地形を考慮した一時避難場所を確保するための対応が必要である
- ・日々の暮らしに安心感をもたらすための対応が必要である

第1回地域懇談会(10/29、11/1)におけるご意見(地域の現状)

- ・3・4・11号線ができれば、防災面でも大きく変わるのではないかと。
- ・道路が狭く、つきあたりが多い。火災時、避難や緊急車両の通行が大変。一気に解決するのは不可能なので、優先順位や方策を考えてほしい。
- ・東元町は国分寺崖線の南側で、道路はぶんバスも通れないほどの広さしかない。高齢者も多いので、災害時が心配である。
- ・南町1丁目は東京経済大学が地区防災センターになっている。坂になっている部分で、要介護者の避難をどうするか検討する必要がある。
- ・災害時の避難のために、リアカーを設置したが、誰が引けるのかが問題。昼間であれば、大学生に協力してもらえないか。
- ・第4小学校の避難所では、災害時は学生が誘導したり担架を運んだりするシステムがとられている。
- ・新築の場合、ブロック塀を禁止できないのか。日当たりや、災害時隣の敷地に逃げるのに跨げるなど、適切な高さ制限を設けるのもよい。
- ・この地域は避難所の設定が難しい。泉町から坂になっており、災害時に高齢者は避難が困難。地域センターのところに避難所があればよかった。
- ・ブロック塀は撤去に市の補助があり良い。空き家にも何か対策をとってほしい。火災や防犯が心配。
- ・建築家が設計した住宅で、デザイン上高いブロック塀を設けているところがある。デザインと安全の兼ね合いもあるが、市でも指導したほうがよい。
- ・ブロック塀、生垣は管理の問題がある。防犯上、生垣を切り過ぎるのはよくない。
- ・空き家が放置されているところがある。町会で管理している。
- ・高齢者の単身世帯で、福祉施設に入居しそのまま空き家になっている家がある。自治会に加入していないので、情報が入らないのが問題。
- ・空き家になっても、固定資産税が上がるので更地にしない。木が伸びて道路にせり出していたり、建物が古く倒壊の危険がある。
- ・空き家が自立している。学生用のシェアハウスにする案はどうか。入居する学生に地域のボランティア活動に参加してもらえたらよいのではないかと。
- ・夜、駅から自宅に帰るのに街灯が少なく怖い。
- ・私道には街灯設置の補助が出ない。公道のように使われている私道もあるので、市でも補助にもう少し融通をきかせてほしい。自治会の予算だけでは難しい。
- ・防犯灯の設置間隔の基準が、距離なのか世帯数なのか曖昧である。
- ・防犯灯のLED化が遅れている。

懇談資料1で示した南町・泉町・東元町・西元町地域の
まちづくりの方針(案)との関連

方針1：国3・4・11号線等の道路整備による災害時に備えた空間を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①延焼遮断機能の向上	●	●	●
②主要な生活道路の道路状空間の確保	—	●	●

方針2：多くの住宅が建ち並ぶ住環境において災害に強い街並みを形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①住宅地における災害に強い建築物への建替え	—	●	—
②地域住民との協働による防災まちづくりの推進	—	—	●

方針3：災害時にも有効に機能する避難場所等を形成します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①地区防災センターにおける防災機能の拡充	●	●	●
②避難場所となるオープンスペースの確保	●	—	●

方針4：日常生活に安全・安心をもたらすまちづくりを推進します

方針の実現に向けた方向性	(1)	(2)	(3)
①地域住民との協働による安全・安心まちづくりの推進	—	—	●